

7 . 港湾計画の基本方針(案)

7 - 1 基本方針(案)

木更津港への要請と課題に対応し、将来像の実現を図るため、概ね平成 30 年代前半を目標年次とする港湾計画の基本方針(案)を以下のとおり定める。

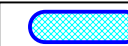





港湾背後企業の競争力を強化するため、物流コストの削減に資する、船舶の大型化に対応した物流機能の強化を図る。

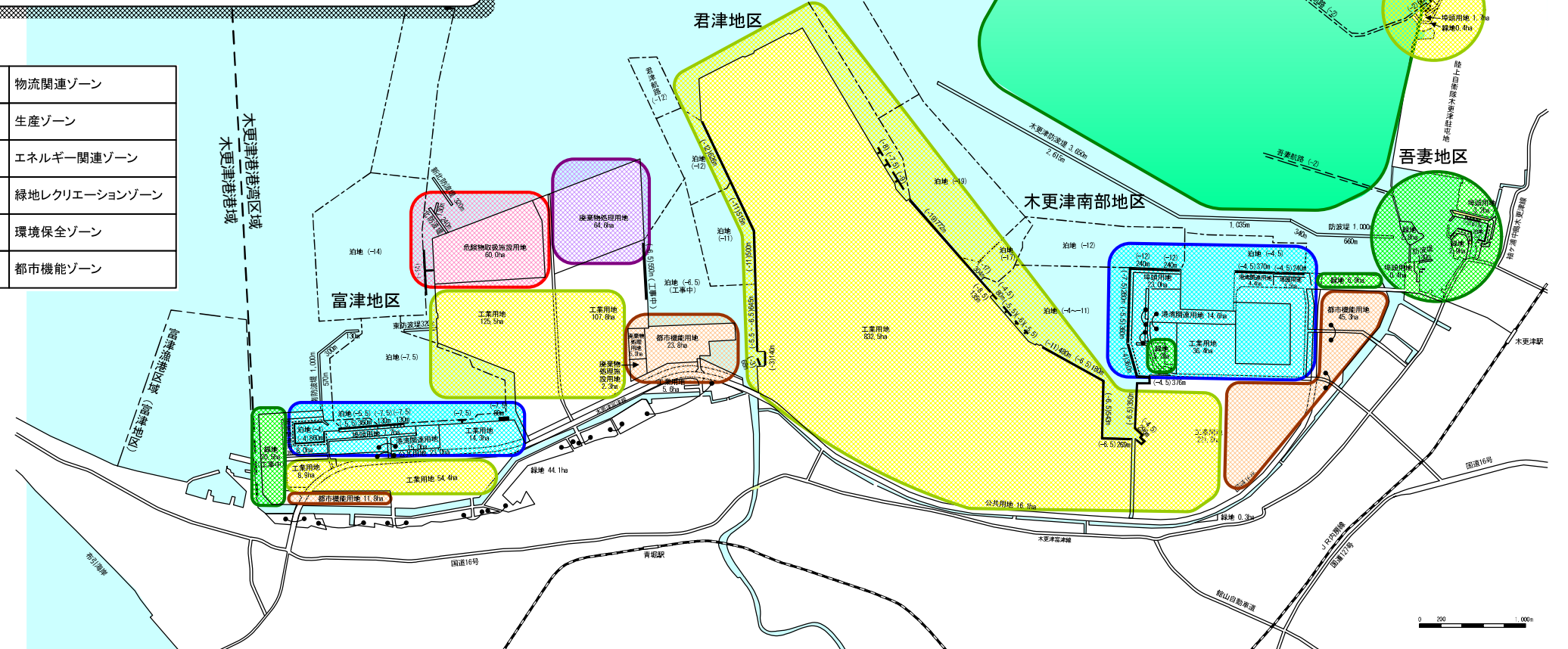
港内における船舶の安全な停泊を確保するため、内航貨物船(ガット船)、交通船等の適切な収容を図る。

大規模地震発生等、災害時における物資の緊急輸送、住民の避難に供するため、大規模地震対策の強化を図る。

港湾の安全性の向上と秩序ある海洋レジャーの推進を図るため、港内に放置されているプレジャーボートの適切な収容を図る。

快適な港湾環境を創造するため、地域住民が海に親しむことのできる開放的な親水空間の創出及び地域住民等の交流に配慮した空間の創出を図る。

	物流関連ゾーン
	生産ゾーン
	エネルギー関連ゾーン
	緑地レクリエーションゾーン
	環境保全ゾーン
	都市機能ゾーン



7 - 2 港湾空間利用ゾーニング図(案)

物流・交流・環境・安全の多様な機能を適正に配置し、効率性、快適性、安全性の高い港湾空間を形成するため、港湾空間(案)を以下のように利用する。

吾妻地区及び富津地区南部は、緑地レクリエーションゾーンとする。

木更津南部地区及び富津地区中央部は、物流関連ゾーンとする。

君津地区、富津地区北西部及び奥部は、生産ゾーンとする。

富津地区北部は、エネルギー関連ゾーンとする。

木更津南部地区東部は都市機能ゾーンとする。

江川地区から吾妻地区にかけての水域は環境保全ゾーンとする。